

平成22年度茨城県の財務諸表の概要

I はじめに

茨城県では、県民に分かりやすい形で県の財政状況に関する情報を提供するため、国（総務省）の「地方公共団体における行政改革の更なる推進のための指針の策定について」に基づき、企業会計的手法を活用した公会計基準である「総務省方式改訂モデル」により、普通会計及び第三セクター等の関係団体を含めた連結の財務諸表を作成しています。

【財務諸表作成に係るこれまでの取組み】

- ・平成12年度(平成11年度決算)～ 普通会計のバランスシート及び行政コスト計算書の作成
- ・平成13年度(平成12年度決算)～ 企業会計等を含めた県全体のバランスシートの作成
- ・平成14年度(平成13年度決算)～ 施設別行政コスト計算書の作成
- ・平成17年度(平成16年度決算)～ 第三セクター等の関係団体を含めた県連結バランスシートの作成
- ・平成21年度(平成20年度決算)～ 「総務省方式改訂モデル」(※)に基づく財務諸表4表の作成

※ 総務省が示す会計基準には、「総務省方式改訂モデル」と「基準モデル」の二方式がありますが、41道府県（平成21年度決算時）で採用する「総務省方式改訂モデル」で作成しています。

今後とも、効率的・効果的な行財政運営に資するよう財務諸表の充実に努めるとともに、財政諸表の分析等を通じ、県の財政状況に関する情報をより分かりやすい形で提供できるよう取り組んでまいります。

II 財務諸表の概要

1 財務書類の種類

- ①貸借対照表（バランスシート）… 県が住民サービスを提供するために保有している財産（資産）と、その資産がどのような財源（負債・純資産）で賄われてきたかを表示したもの
⇒資産と負債を対比することにより、将来負担の状況を把握
- ②行政コスト計算書(※)… 行政サービスにかかった費用（経常行政コスト）と、その直接の対価として得られた手数料等（経常収益）を対比したもの
⇒行政サービスに対する県及び受益者の負担状況を把握
- ③純資産変動計算書… 貸借対照表の純資産が1年間でどのように変動したのかを表示したもの
⇒税等の一般財源・補助金収入や臨時損益等を把握
- ④資金収支計算書（キャッシュフロー）… 現金が1年間でどのように変動したのかを表示したもの
⇒実際の資金の流れや残高状況を把握

※ 「行政コスト計算書」は、企業会計でいう「損益計算書」に相当するものですが、「経常行政コスト」は、住民全体に対するサービスにかかった費用を計上するのに対して、「経常収益」は受益者からの負担金・手数料のみとし、税収や補助金収入等は計上しないため赤字となります（税収や補助金収入等は純資産変動計算書で計上）。

2 財務書類の相関関係

| 【①貸借対照表】 | | 【②行政コスト計算書】 | |
|--------------------|-------------------|---------------------|------------------|
| 資産 | 負債 | 費用 | 収入 |
| 資産 4兆 471億円 | 負債 2兆3,951億円 | 経常行政コスト 8,552億円 | 経常収益 239億円 |
| ・公共資産 3兆5,841億円 | ・固定負債 2兆1,618億円 | | 純経常行政コスト 8,313億円 |
| ・投資等 4,027億円 | ・流動負債 2,333億円 | | |
| ・流動資産 603億円 | 純資産 | | |
| (うち歳計現金 101億円) | 1兆6,520億円 | | |
| 【④資金収支計算書】 | | 【③純資産変動計算書】 | |
| 経常的収支 1,786億円 | 期首純資産残高 1兆7,870億円 | ・純経常行政コスト ▲ 8,313億円 | |
| 公共資産整備収支 ▲ 588億円 | | ・税等一般財源 5,562億円 | |
| 投資・財務的収支 ▲ 1,156億円 | | ・補助金等受入 1,333億円 | |
| 歳計現金増減額 42億円 | | ・資産評価替え 62億円 | |
| 期首歳計現金 59億円 | | ・臨時損益等 6億円 | |
| 期末歳計現金 101億円 | | 期末純資産残高 1兆6,520億円 | |

Ⅲ 平成22年度財務諸表（普通会計）の概要

1 貸借対照表の状況

(億円)

| 区 分 | H21末 | H22末 | H22-21 |
|---------|--------|--------|--------|
| 【資産】 | 40,812 | 40,471 | ▲341 |
| 公共資産 | 36,184 | 35,841 | ▲343 |
| 有形固定資産 | 36,134 | 35,756 | ▲378 |
| 売却可能資産 | 50 | 85 | 35 |
| 投資等 | 4,184 | 4,027 | ▲157 |
| 投資・出資金 | 1,459 | 1,448 | ▲11 |
| 貸付金 | 1,864 | 1,806 | ▲58 |
| 基金等 | 791 | 664 | ▲127 |
| 長期延滞債権 | 142 | 152 | 10 |
| 回収不能見込額 | ▲72 | ▲43 | 29 |
| 流動資産 | 444 | 603 | 159 |
| 現金預金 | 400 | 562 | 162 |
| 未収金 | 44 | 41 | ▲3 |

| 区 分 | H21末 | H22末 | H22-21 |
|-------------|--------|--------|--------|
| 【負債】 | 22,942 | 23,951 | 1,009 |
| 固定負債 | 20,362 | 21,618 | 1,256 |
| 地方債残高 | 16,892 | 18,175 | 1,283 |
| 長期未払金 | 188 | 159 | ▲29 |
| 退職手当引当金 | 3,282 | 3,284 | 2 |
| 流動負債 | 2,580 | 2,333 | ▲247 |
| 翌年度償還予定地方債 | 2,007 | 1,781 | ▲226 |
| 未払金 | 34 | 35 | 1 |
| 翌年度支払予定退職手当 | 346 | 335 | ▲11 |
| 賞与引当金 | 193 | 182 | ▲11 |
| 【純資産】 | 17,870 | 16,520 | ▲1,350 |

*退職手当引当金、賞与引当金は、国の作成基準に基づき推計値を計上。

【ポイント】

○概要

- ・資産総額は4兆471億円となっており、その大半は道路用地や県有建物等の「公共資産」が占める。(金額：3兆5,841億円 構成比:88.6%)
- ・負債総額は2兆3,951億円となっており、その大半は「地方債残高（翌年度償還予定額含む）」が占める。(金額：1兆9,956億円 構成比:83.3%)

○前年度末との比較

- ・資産：341億円減少（有形固定資産の減価償却による減、及び公共事業費等の減少による取得資産の減）
- ・負債：1,009億円増加（臨時財政対策債等の発行が増加したことによる地方債残高の増）
- ・純資産：1,350億円減少（資産と負債の差額であり、資産が減少するとともに、負債が増加したことによる）

2 行政コスト計算書の状況

(億円)

| 【経常行政コスト】 | H21 | H22 | H22-21 |
|------------|-------|-------|--------|
| 人にかかるコスト | 3,222 | 3,281 | 59 |
| 人件費 | 2,819 | 2,805 | ▲14 |
| 賞与引当金繰入 | 193 | 182 | ▲11 |
| 退職手当引当金繰入 | 210 | 294 | 84 |
| 物にかかるコスト | 1,546 | 1,570 | 24 |
| 物件費 | 406 | 411 | 5 |
| 維持補修費 | 79 | 72 | ▲7 |
| 減価償却費 | 1,061 | 1,087 | 26 |
| 移転支的コスト | 3,201 | 3,060 | ▲141 |
| 社会保障給付 | 192 | 220 | 28 |
| 補助金等 | 1,982 | 2,031 | 49 |
| 他会計等への支出額 | 323 | 371 | 48 |
| 公共資産整備補助金等 | 704 | 438 | ▲266 |
| その他のコスト | 325 | 641 | 316 |
| 支払利息 | 275 | 276 | 1 |
| 回収不能見込計上額等 | 50 | 365 | 315 |
| 合計(A) | 8,294 | 8,552 | 258 |

| 【経常収益】 | H21 | H22 | H22-21 |
|---------------|-------|-------|--------|
| 使用料・手数料等 | 189 | 121 | ▲68 |
| 分担金・負担金等 | 206 | 118 | ▲88 |
| 経常収益計(B) | 395 | 239 | ▲156 |
| 純経常行政コスト(A-B) | 7,899 | 8,313 | 414 |

| 受益者負担比率(B/A) | H21 | H22 | H22-21 |
|--------------|------|------|--------|
| | 4.8% | 2.8% | |

*税等収入や国からの補助金収入は、純資産変動計算書で計上するため、行政コスト計算書の経常収益には計上しない。

*退職手当引当金繰入（退職手当に退職手当引当金の年度間の変動を加味して算出）及び賞与引当金繰入は、国の作成基準に基づき推計値を計上。

【ポイント】

○概要

人件費等の「人にかかるコスト」が3,281億円（構成比38.4%）と最も大きく、次いで「移転支的コスト（市町村等への補助金や国への直轄事業負担金等）」が3,060億円（同35.8%）、物にかかるコスト（減価償却費等）が1,570億円（同18.4%）の順となっている。

○前年度末との比較

経常行政コストは258億円増加

- ・人にかかるコスト：59億円の増加（退職手当引当金繰入の増等）
- ・物にかかるコスト：24億円の増加（有形固定資産に係る減価償却費の増等）
- ・移転支的コスト：141億円の減少（国への直轄事業負担金の減等）
- ・その他のコスト：316億円の増加（住宅供給公社の解散に伴う貸付金回収不能額等の増）

3 純資産変動計算書の状況

(億円)

| 区 分 | H21 | H22 | H22-21 | 増減の主な要因 |
|-----------|--------|--------|--------|--------------------|
| 期首純資産残高 A | 18,425 | 17,870 | ▲ 555 | |
| 純経常行政コスト | ▲7,899 | ▲8,313 | ▲ 414 | |
| 税等一般財源 | 5,490 | 5,562 | 72 | 地方税 ▲142 地方譲与税 175 |
| 補助金等受入 | 1,837 | 1,333 | ▲ 504 | 国の経済対策による交付金等 |
| 資産評価替え | 24 | 62 | 38 | |
| 臨時損益等 | ▲ 7 | 6 | 13 | |
| 期末純資産残高 B | 17,870 | 16,520 | ▲1,350 | |
| 増減額 B-A | ▲ 555 | ▲1,350 | ▲ 795 | |

【ポイント】

○概要

住宅供給公社の解散に伴う貸付金回収不能額の増などにより純経常行政コストが増加（純資産変動計算書では▲で計上）する一方、国の経済対策等による交付金等の減により補助金等受入額が減少したことから、期末純資産残高は1,350億円の減となっている。

○前年度との比較

- ・地方税： 142億円の減少（地方法人特別税の平年度化による法人事業税の減等）
- ・地方譲与税：175億円の増加（地方法人特別譲与税の増等）
- ・補助金等： 504億円の減少（国の経済対策による交付金（基金積立方式のもの）等の減）

4 資金収支計算書の状況

ア 経常的収支の部

(億円)

| 区 分 | H21 | H22 | H22-21 |
|----------------------|-------|-------|--------|
| 支出合計 | 6,345 | 6,510 | 165 |
| 人件費 | 3,331 | 3,300 | ▲ 31 |
| 補助金等 | 1,987 | 2,148 | 161 |
| 収入合計 | 8,123 | 8,306 | 183 |
| 地方税 | 3,389 | 3,249 | ▲140 |
| 地方交付税 | 1,667 | 1,795 | 128 |
| 地方債発行額 (臨時財政対策債等) | 1,119 | 1,289 | 170 |
| 経常的収支差額 A | 1,778 | 1,796 | 18 |

ウ 投資・財務的収支の部

(億円)

| 区 分 | H21 | H22 | H22-21 |
|--------------|--------|--------|--------|
| 支出合計 | 3,253 | 2,590 | ▲663 |
| 貸付金 | 1,401 | 1,231 | ▲170 |
| 地方債償還額 | 1,088 | 1,079 | ▲ 9 |
| 収入合計 | 1,989 | 1,434 | ▲555 |
| 貸付金回収額 | 1,473 | 997 | ▲476 |
| 地方債発行額 | 25 | 282 | 257 |
| 投資・財務的収支差額 C | ▲1,264 | ▲1,156 | 108 |

イ 公共資産整備収支の部

(億円)

| 区 分 | H21 | H22 | H22-21 |
|---------------------------|-------|-------|--------|
| 支出合計 | 1,996 | 1,472 | ▲524 |
| 公共的資産整備支出 | 1,215 | 806 | ▲409 |
| 公共的資産整備補助金等支出 (直轄負担金等) | 704 | 438 | ▲266 |
| 他会計への建設費充当財源繰出支出 | 77 | 228 | 151 |
| 収入合計 | 1,467 | 874 | ▲593 |
| 国補助金 | 329 | 163 | ▲166 |
| 地方債発行額 (普通建設事業債) | 905 | 478 | ▲427 |
| 公共資産整備収支差額 B | ▲ 529 | ▲ 598 | ▲ 69 |

(億円)

| 区 分 | H21 | H22 | H22-21 |
|-----------------------------|-----|-----|--------|
| 当年度歳計現金増減額 D = A + B + C | ▲15 | 42 | 57 |
| 期首歳計現金残高 E | 74 | 59 | ▲15 |
| 期末歳計現金残高 F = D + E | 59 | 101 | 42 |

【ポイント】

○概要

平成22年度末の歳計現金残高は101億円であり、平成21年度末に比べ42億円の増となっている。

○前年度との比較

- ・経常的収支の部： 18億円の増加（臨時財政対策債の発行の増などにより、収入が増加したこと等による）
- ・公共資産整備収支の部： 69億円の減少（公共事業などの公共的資産整備支出が減少したことなどに伴い、地方債発行額が減少したこと等による）
- ・投資・財務的収支の部：108億円の増加（国の経済対策による交付金を活用した基金積立の減などにより、支出が減少したこと等による）